



## 中小学校産ほたるの幼虫

ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘

## 夢に向かって

中小学校 教頭 上野 敏晴

『うずまのほたる』は、平成15年6月発行以来、今回記念すべき30号になります。毎年「中地区ほたるを観る会」のある6月と「えのき祭」のある10月に発行してきました。中小児童やボランティア等、中地区の多くの皆様に原稿を依頼し、中地区全戸に配布してきました。広報班の皆様のご苦勞に大変感謝申し上げます。

さて、今年は「中小産ほたるの誕生」という、目を見張る素晴らしい活動がありました。中小学校理科室ミニビオトープでは、毎年6月にほたるが飛び交います。今年はその後の観察が終わってから、ほたるが交尾し産み付けた卵を採ることができました。今では幼虫となり、大きく成長しています。山野井先生が中心となり子供たちと飼育しています。初めての中小学校産ほたるの幼虫を来年2月に放流できそうです。

また、ほたるのビオトープの大掛かりなザリガニ退治と環境整備を行っています。事前に水路の砂利を全て児童が外へ出し、その後ボランティアが水を止め水路の清掃をしました。外側の木の伐採もしました。水路に日光が当たるようになりました。ザリガニを退治したことで幼虫がザリガニに食べられず、日光が注ぐことで多くのほたるが成長すると思います。

この二つの活動により、来年からビオトープで沢山のほたるが飛び交うことでしょう。楽しみです。

教育には夢や希望が欠かせません。4年前本校に教頭として赴任し、「中地区ほたるを観る会」に参加した時、「この学校には夢がある。何て素晴らしい所だろう。」と思いました。「ほたる飛び交う巴波川や中地区を取り戻したい。」これが中小児童と保護者・地域の方々の夢であり、希望であることがひしひしと伝わってきました。

私が初めてほたるを見たのは、小学校高学年の時でした。友達が虫かごに入れたほたるを見せてくれました。その時は、あまり興味は持てませんでした。しかし、ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会の方々と活動しながら、光ながら飛ぶほたるを目にした時、幻想的なその光景に魅了されてしまいました。会長さん達がおっしゃるには、ほたるが群れを成して飛ぶ。多いときは、ほたるが光り輝く柱のように乱舞する。しかもそれは、ほたるの会の皆様が子どもの頃まで見られたそうです。自分には想像がつかない光景です。でも、自分もできるなら見てみたい。自分もほたる復活の夢を目指したい。そう思いました。

ほたるの会の皆様は、とてもお元気でパワフルでいらっしゃる。一致団結し、瞬く間に作業がはかどります。このエネルギーはどこから来るのか、それはやはり、夢、「ほたるを取り戻したい」という一途な思いからではないでしょうか。子供と保護者・地域の方々が、共通の夢「ほたるを取り戻す」を持ち続ける限り、学校も共に夢に向かって取組んで参ります。

# 自然の恵みを収穫 稲刈り・脱穀

## きれいにかれた稲刈り

3年 荒川 ゆり

私がいねかりで思ったことは2つあります。1つめは、いねをかった時にきれいにかれて、とても気持ちよくなりました。そして、楽しいなと思いました。2つめは、ちいきの方やボランティアの人たちのおかげで、いいいねかりが出来たんだと思いました。さいしょは少しふあんだったけど、はじめたら、じょうずになりました。とても楽しかったです。

五七五 ～ いねかりは とっても楽しい 気持ちいい ～



1年生も上手に稲刈り



「はで掛け」から稲束を下ろします



先生方も大活躍！



脱穀機の所に運びます



昔のだっこくを体験

九月二十六日にだっこくをやりました。私は二年生とペアでやりました。まとめた稲をコンバインの所に運びました。稲をまとめたものは軽かったり重かったりしたけれど、がんばって運びました。ボランティアの人も手伝ってくれたおかげで、だっこくも早く終わりました。えのき祭で食べるのが楽しみです。

五七五

だっこくでお米がたんたん あらだす

がんばっただっこく  
五年 島田 彩羽

だっこくコンバイン

一年 くわはら ねな

九がつ二十六にちに田んぼで、だっこくがありました。ちいきの人とやりました。コンバインがありました。コンバインは、はじめてみました。わたしは、だっこくをやったのはじめてでした。すくたいへんでした。

あんなに小さかったいねが、あんなに大きくなったのでびっくりしました。

五七五

おむすびをはやくたべたい えのきさい

# ほたるを観る会



今年はビオトープの中に入って観賞でき、間近でほたるを観ることができました。

6月9日から2日間、中地区の恒例行事『ほたるを観る会』がありました。式典後、中小6年生のほたる活動の実践発表がありました。先輩の研究を受け継ぎ、さらに新しい取り組みがなされ、素晴らしい発表でした。

各種イベントでは、保護者や祖父母の皆さんが会場にお出でになり、展示物をご覧になったり、ほたる籠編みでは親子そろって取り組まれる姿が見られたりしました。また、ボランティアの大学生が「ほたる」の折り紙を教えてくださいました。外では夜店に行列ができて、テントの食堂が賑わいました。なお、理科室のミニビオトープでは、観る会に先立ち6年生が育てたほたるによる「ミニホテルを観る会」が行われ、児童や保護者等が中小で育てたほたるを鑑賞しました。

## 近くで見た光るほたる

4年 齋藤 雄大  
今年も楽しみにしていた、ほたるを観る会に参加しました。毎年少しずつほたるがふえて、うずま川にほたるがもどってくるといいなと思っています。今年もビオトープ内に入ることができ、近くでほたるを見られました。たくさんのほたるが、光りかがやくことをねがって、用水路や川のごみを拾ったり、ザリガニをくじょしたりしたいです。

五七五

～ うずま川 ほたるをもどそう  
がんばろう ～



ほたる籠づくり



ほたる五七五の発表



ほたるクイズコーナー

## キラキラのほたる

2年 柏崎のぞみ  
ほたるをみる会で、ほたるをたくさん見ることができました。ほたるはとても小さくてほう石みたいにキラキラしていて、うつくしかったです。来年も、たくさんとんだきれいなほたるを見たいと思っています。

五七五

～ キラキラの ほたるをいっぱい  
らいねんも ～

## ほたるビオトープリニューアル

9月24日(日)、ほたるの会の皆様のご協力をいただき、ビオトープのザリガニ駆除と改修作業を行いました。事前に全児童で水路の砂利を運び出し、ザリガニ捕りをしました。

当日は、水路の大きな石を取り除きコンクリートで補強したり、ビオトープの日当たりを良くするために、樹木を伐採したりしました。おかげ様で、新しいビオトープに生まれ変わりました。



## 「ほたるを観る会」に参加して

中地区自治連絡協議会 会長 猪股 正

今回初めて「ほたるを観る会」に参加をさせていただきました。ビオトープ内に入ると、蛍が放つ幻想的な光の光景に、忘れていた子どもの頃の郷愁を思い起こされました。

子どもたちの飼育の成果や研究発表、展示物などを見て、この活動の中から自然の大切さや人を思いやるやさしい心が養われていくのだと思います。さらに、多くの地域の方々がこの取組に参加し「ほたる飛び交う中地区」を目指して熱心に活動する姿に感銘致しました。いつの日か巴波川のほとりでほたるの光景を見たいものですね。これからも地域の皆さんとともに応援していきたいと思っています。

## 卵から生まれた幼虫

六年 玉野 陽葉里

ほたるの幼虫が卵から生まれ、わたしが一番最初に思ったことは、何事もなく無事に生まれてきてくれて有難うと言う気持ちでした。

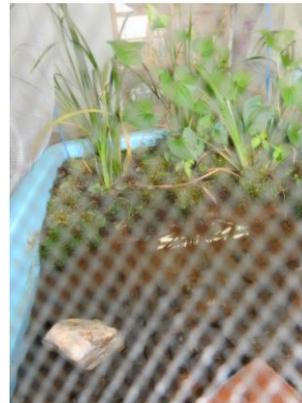
同時に、卵から生まれてきてうれしかったけど、生まれてきてくれた幼虫を育てられるか心配でした。今は、とても大きく育ってきてくれたのでたいへんうれしいです。これからも元気に育って、りっぱな成虫になって光ってほしいと思います。

五七五

～ 夢いなく 生まれられて ありがとう ～



児童の広報「ほたる通信」



ミニビオトープ

## 中小産のホタルを目指して

六年担任 山野井 精孝

子どもたちとの話し合いの中で、今までにない取り組みをしようとして、今年からは卵から育てることになりました。

まず大変だったのは、乾燥させないことです。こまめに霧吹きをし、エアポンプを利用して下から湿らせて、幼虫の誕生を待ちました。そして、六月十二日にヘイケボタルの幼虫が生まれました。糸くずのように小さな幼虫を森田会長に確認していただいて、ほたるの幼虫に間違いのないわかったときの感動は忘れられません。

次に大変だったのは、何を食べさせたら良いかです。これも森田会長に教えていただき、生まれたばかりのカワニナ(稚貝)であることがわかりました。カワニナを再びとって飼いはじめ、稚貝を与えました。あまりとれないときには、ほたるの会の新井さんに助けを求めました。

さらに、夏の暑さをどう乗り切りますかです。ペットボトルに水を入れて凍らせ、冷やしました。

これまで順調に中小産のホタルが育ったのも、子どもたちが頑張ってお世話したこと、ほたるの会の皆さんの協力があったからこそです。ありがとうございます。

## —うずまのほたる— 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・飯田 宣・相川 茂  
齋藤 久美・五十畑典子・上野 敏晴・金子 弘隆

## ＝ 編集後記 ＝

記念すべき「うずまのほたる30号」の発行の運びとなりました。編集委員のみなさんはもちろんのこと、原稿の執筆や写真の提供をいただいた皆様の気持ちの詰まった広報紙です。これからも続いて行くことを願っています。ありがとうございました。